

令和5年産 紀南の梅産地情報

2023/07/24

「生産概況」

1. 今年の南高の開花期間は19日間と平年より3日程度短くなり、満開期は2月16日と平年より2日程度遅くなった。授粉樹との開花はほぼ揃い、開花始めに気温は高く推移し、満開期前に気温が低下したものの、その後天候は安定した日が続いた。収穫前の定点着果量調査では、着果量は前年並みで平年より多く、3月中旬から4月下旬は周期的な降雨と気温が高く推移したことから生育は順調に進んだ。

出荷は小梅で5月8日、古城は5月12日、主力の南高は5月24日からそれぞれ始まった。5月上旬から6月上旬までは平年を上回る降水量があったが、気温が平年並みからやや低く、後半の果実肥大が鈍化した。病害虫については灰色かび病、すす斑病の発生が多かった。

2. 生産量は、小梅は前年・平年並み、古城は前年並みで平年より少なく、南高は前年・平年並みの見込みとなっている。

7/24日時点（生産見込量：トン）

品 種	5年産	4年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	789	780	793	101%	99%
古 城	403	381	541	106%	75%
南 高	21,762	21,288	22,181	102%	98%
在来系	447	414	469	108%	95%

「安全・安心対策」

J A紀南の安全・安心対策は21年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、GAP（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動の中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。山畑等不安定園地での授粉対策や品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。